

# つるし雛 (つるし飾り)

一針一針に我が子、孫の幸せ願う



松尾洗心館で昨年10月から始まった和風小物あそび教室(全10回)、伊豆稲取地区で伝承されている雛のつるし飾りに挑戦しました。参加者20人はベテラン揃い、器用に手先を動かして、楽しみながら小物を作成していました。

最後に、一針一針心をこめた小物をつなげ、それを吊るしました。

つるし雛は、子や孫の初節句を待ちわびながら健やかな成長を願い、手作りの雛飾りでお祝いをしようとするもので、糸の先に、あり合わせの布で作った人形やかざりなどを吊るします。

地元の和裁細工として受け継がれてきたもので、これらの風習は九州柳川地区では「さげもん」、山形坂田地区では「傘福」と呼ば

れており近年三大つるし飾りと呼ばれています。

人形のほかに「桃の実」「唐辛子」「米俵」などを作り一緒に吊るします。かざりには、それぞれ意味があります。

## かざりに込められた願い

- 「桃の実」は邪を除ける力がある
- 「唐辛子」虫除け、防虫効果に、かわいい子どもに悪い虫が付かないように。
- 「米俵」食べ物に不自由しないように。
- 「うさぎ」赤い目の兎は、病気を治す力がある
- 「巾着」お金に不自由しないように など

